

塾生の成功の実現と地域の教育力向上を目指して

開倫塾

塾長 林 明夫

- お読みになりやすいように QandA の形式で書かせて頂きます -

Q 開倫塾はどのような経緯で設立され、今日に至ったのですか。

A (林明夫。以下省略)

- (1) 開倫塾は 1979 年 10 月に栃木県足利市の郊外、百頭町で創業されました。
- (2) 創業者の私は、慶應義塾大学法学部法律学科に在学中から、学資や生活費を稼ぐために学習塾や予備校の講師、家庭教師をしていました。また、卒業後、司法試験の勉強のために慶應義塾大学法学部司法研究室の研究生であった間も開倫塾開業までずっと学習塾や予備校の講師、家庭教師をし続け、児童・生徒に教えることの喜びや大切さを日々感じ続けておりました。
- (3) 大学では、犯罪の原因と対策を研究する宮沢浩一教授の刑事政策のゼミ(研究会)に所属。宮沢先生の指導の下に、数多くの刑務所や少年院などの矯正施設を訪問する度に、教育担当の刑務官の先生から「学校や家庭、社会でちゃんと勉強していれば、このようなところに来なくてもすむ人々なのに」と教えて頂きました。
- (4) なぜ学習塾を始めたのか。司法試験断念後の自らの生活のためという理由もありますが、学習塾や予備校の講師と家庭教師の経験で教える喜びや大切さを実感したこと、刑務所などの矯正施設で刑務官の先生から教育の重要性を教えて頂いたことがあります。
- (5) 開倫塾を開業した栃木県足利市は、戦後 20 ~ 30 年間、北関東有数の工業都市で、中小企業経営や自営業者が多かったためか、進学熱が極めて高く、私が開業した当時は 16 万人余りの人口の市内に 200 以上の学習塾が集中しておりました。そこで、学習塾の集中している足利市の中心部を避け、足利市の南端で人口の急増している百頭町の 8 畳と 6 畳の 2 間の借家をお借りして開業。
- (6) 私がやりますからよろしくと、コピーの機械もなかったので文具屋さんでその日に配布する分だけをコピーして、昼間は近所を一軒一軒訪問して PR。夕方から夜と、土曜の午後、日曜は一日中、小学校 1 年生から高校 3 年生までの塾生を指導し続けておりました。小学生の算国と中学生の数学は優秀な先生が担当。小学生の英語と中高生の他の教科は私が担当。
- (7) 小学生算国と中学数学担当の先生が優秀であったことに加え、私自身教えるのが大好きで、高校生時代から学習塾の手伝いをし、大学に入学以来ずっと都内や地元で学習塾や予備校講師、家庭教師を続け教えるべき内容がほぼ身につけていたためか、塾生がどんどん増えました。教室が手狭になったため、近くに 100 坪の土地が売りに出たのでそこに学習塾専用の校舎を建てることを決意。

- (8)個人経営であったものを、株式会社開倫塾として法人設立。私が代表取締役社長に就任し、足利銀行に御融資をお願いして、学習塾としての設備を整えることができました。
- (9)そうこうするうちに、少しずつ親族や友人、知人をはじめ優秀な方々を講師としてお迎えできるようになったため、足利市に隣接する人口急増の群馬県の邑楽町に知人の紹介でテナントをお借りし、邑楽校を開校。佐野市の北部で人口急増の赤見地区でも地元の有力な方の御協力があり、佐野石塚校(現在は佐野北校として移転)を開校。太田市の東端にも、知人の紹介ですぐ横が田んぼのところに太田東校を開校。
- (10)このように、多くの友人、知人の御紹介と優秀なスタッフの御努力、御力に支えられ、2010年12月現在、栃木県内に41校、群馬県内に6校、茨城県内に6校と、合計53校の校舎を展開するに至りました。

Q 開倫塾の社会的使命は何ですか。

- A (1)塾生の成功の実現に貢献することです。約7000名の開倫塾の塾生の皆様は、在塾中は小学生や中学生、高校生ですが、高校卒業後は9割以上の方々が大学や短期大学、専門学校など、所謂(いわゆる)高等教育機関に進学しています。
- (2)「大学の大衆化」、「高等教育の大衆化」は国民の基礎力や能力を向上させる上で素晴らしいことではありますが、「算数のできない大学生」、「勉強の仕方が身についていない大学生」と言われるなど、学力上の大きな問題を発生させています。多くの大学も「初年次教育」や「リメディアル(補修)教育」のプログラムを組み、大学の大衆化に対応しようとしていますが、高校卒業までに大学に入学する者としての学力や資質を備えることへの大学や社会からの要請は極めて大きいと考えます。
- (3)開倫塾は、このような塾生の大半が高校卒業後進学する大学等の高等教育機関における学生の厳しい現実を直視。開倫塾の塾生である間に学年相応の基礎学力と勉強の仕方を具体的に身につけてもらおうと、教育目標の中に「自己学習能力の育成」を掲げ、学習を理解、定着、応用の3段階に分け、1つ1つの段階ごとの勉強方法を「学習の3段階理論」としてまとめ上げ、具体的に明示しています。

Q 「学習の3段階理論」とは何ですか。最初の「理解」から説明して下さい。

- A (1)「理解」とは、うんなるほどよくわかること、納得すること、腑(ふ)に落ちることと開倫塾では定義しています。
- (2)学校や開倫塾の授業中は、姿勢を正し、手を机の上に置き、先生の目を見て、先生の話真剣に聞くこと。
- (3)先生の指示に従って、積極的に授業に参加すること。
- (4)必要なことはすべてメモ(ノート)すること。メモやノートは、授業後に必ず、見やすいように整理すること。
- (5)わからないことがあれば、先生の許可を得て質問すること。
- (6)欠席や遅刻、早退、私語(おしゃべり)、居眠り、ケータイ、授業以外の作業、ボーッと

いることは、「授業」を通しての「理解」の妨げになるから、できるだけ避けること。

(7) 学校や開倫塾のテキストや問題集などの教材を読むときには、先生の授業を受けるようなつもりで一語一句できるだけゆっくり、そうかこれはこういうことなのかと「理解」していくこと。

「理解」は自分で教材を勉強しても可能なので、予習や復習を奨励。

自分で教材を通して「理解」するときには、わからないことばに出会ったら「よくわからなくて気持ちが悪い」と思い、辞書を引いてそのことばの意味をおっくうがらないで必ず調べること。調べた内容は、「ノート」に「メモ」をしておくこと。

各科目別の「語句のノート」は、折に触れて最初のページから繰り返し読み、一語一語正確にその意味を身につけること。

Q 学習の第2段階の「定着」とは何ですか。

A (1) 「定着」とは、「一度うんなるほどと理解したことを、正確に身につけること」と定義しています。

(2) この「定着」も、細かく次の3つに分けて考えます。

「理解」したことを何も見ないでスラスラ言えるようにすること。そのために有効なのが声を出して読む練習、つまり「音読練習」。

スラスラ言えるようになったことを正確に楷書で書けるまでにすること。そのために有効なのが「書き取り練習」。

授業や自習で一度やった計算や問題は、必ずもう一度やり直すこと。できなかったものは「理解」不足なので、勉強し直す。なぜそのような解答になるのかよく「理解」した計算や問題は、計算や問題を見た瞬間に「パッパッパッ」と条件反射で正解が出るまでにすること。何回も何回も繰り返し「計算・問題練習」。

以上のような意味や内容での「音読練習」と「書き取り練習」、「計算・問題練習」を、開倫塾では「定着のための三大練習」と定義。

「練習は不可能を可能にする」という慶應義塾大学の塾長であられた小泉信三先生の教えを学びながら、「定着のための三大練習」が自分の力でできるよう、塾生を一人ひとり励ましています。

Q 学習の3段階目の「応用」とは何ですか。

A (1) 「応用」とは、「理解」し「定着」した内容を「テスト」で満点や合格点が取れることと、社会での実生活で役立てることができることと定義。

(2) テストで満点や合格点を取るためには、開倫塾の定義における「理解」と「定着」を十分行った上で、「過去問」(過去に出題された問題)を最低でも5～6年分、最低でも5～6回はじっくり取り組む。最後は、問題を見た瞬間にパッパッと正解が出るまでにすることを奨励しています。

(3) 上級学校に進学した後や社会に出ても、今通っている学校での勉強の内容はすべて役立

ちます。そこで、学校や開倫塾で使用したテキストや教材、ノート、辞書、資料集等は絶対に処分しない、捨てないこと。必ず決まった場所に保存し、折に触れて読み返し、上級学校や社会で役立てることを勧めています。

Q 随分細かいですね。

A (1)はい。定期試験対策をして学校の成績を上げることや、中学入試や高校入試、大学入試の受験対策をして希望校に合格することは、学習塾として最も大切ですので十分に行います。そのための指導をしながら、合わせて、はっきり言えば、それ以上のエネルギーを使ってでも、高校卒業後の進路である大学等の高等教育機関での教育や研究に耐えられる自己学習能力、つまり学び方を学ぶ能力を、開倫塾の塾生である間に少しでも身につけてもらいたい。そう希望しながら指導しているので、結構具体的になってしまいます。

(2)学力の高い人は「読書による思慮深さ」も身につけていると言われますので、本をゆっくりできれば5～6回以上読むことや、気に入ったところは「書き抜き読書ノート」にたとえ一行でもメモしておくことをお勧めしています。

(3)また、読書の中には新聞を読むことも含まれますので、新聞を読み自分で考える力、批判的思考(Critical Thinking クリティカル・シンキング)能力を身につけるよう強くお勧めしています。具体的には、小学生は20分、中学生は40分、高校生は60分以上新聞を読もうという指導もしています。「新聞を教育へ」NIE(Newspaper In Education)活動に積極的に取り組んでいる学習塾の1つと思います。

(4)更に、開倫塾では規範教育として毎年「15の躰(しつけ)プログラム」を策定。春夏冬の3回の講習会で3項目を、12か月の授業で12項目をと、合計15項目。一年間かけてこのようなことは自分自身の躰として身につけておいた方がよいと、塾生全員を対象に15項目の躰教育に取り組んでいます。

内容は少しずつ変えていますが、毎年の最初の項目は、靴を手でそろえるです。近年は、本社のある足利市が「5Sの街足利」の運動をしていますので、商工会議所の指導で5S(整理、整頓、清掃、清潔、躰)も15の躰に入れていきます。

Q 開倫塾の経営理念は何ですか。

A 経営理念つまり全社員が共有する価値観は 顧客本位、 独自能力、 社員重視、 社会との調和の4つです。

Q 開倫塾の教育目標は何ですか。

A (1)開倫塾の教育面での目標は

高い倫理(自律的に活動する能力)

高い学力(知識、情報、技術を相互作用的に用いる能力)

高い国際理解(多様な集団で交流する能力)

自己学習能力の育成(学び方を学ぶ能力)の4つです。

(2)()内は4つの教育目標に対応するOECDが示したキーコンピテンシーズと考えています。

Q 開倫塾の経営方針は何ですか。

A 開倫塾の経営上の方針は 学ぶに値する塾づくり、働くに値する職場づくり、倒産しない会社づくりの3つです。

Q 開倫塾の行動目標は何ですか。

A 開倫塾の行動目標は 教え方日本一、塾生数北関東一の2つです。

教え方日本一に一步でも近づき、その結果塾生数が北関東各県の市や町の各地域で一番になればと考えます。教え方日本一に一步でも近づくために、毎年5月の最終日曜日に全国模擬授業大会を開催させて頂いております。

Q 開倫塾の絶対的禁止事項は何ですか。

A 開倫塾では絶対に避けたい禁止事項として

法令違反行為

夜11時過ぎの勤務

セクシズム(性による差別)

エイジズム(年齢による差別)

レイシズム(出身による差別)を掲げ、日々の行動をいましめています。

Q 開倫塾のこれからの取り組み課題は何ですか。

A 校舎やクラスによるサービス水準のバラツキの根絶です。そのために、5S、基礎教育、標準化、改善活動、戦略的方針管理、統計的手法の活用、ISO 29990(非正規教育の国際標準)、シックスシグマ、デミング賞、TQMなどに積極的に取り組み、小さいながらも全組織をあげてPDCAをまわし続け、教育サービス機関としての経営品質の向上に取り組んでいます。

Q どのような開倫塾にしたいですか。

A (1)塾生の人生の成功と地域の教育力向上、正常に機能する社会の形成に少しでも役立つ塾。
(2)誰もが自分の潜在能力を自分で発見し、自分の力で伸ばしながら、85歳過ぎまで働ける塾。
(3)開倫塾に関係するすべての人を大切にする塾。
*このような意味での人間主義経営を目指しています。
・最後までお読み頂きありがとうございました。

感謝

- 2010年12月23日記 -